

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター（第28回）

合同調整委員会、開催！

去る3月10日（金）にネピドーの教育省にて合同調整委員会（JCC）が開催されました。この会議は日本側とミャンマー側がプロジェクトについての進捗状況はもちろん、変更点や問題点など政策的な重要課題を話し合い、よりよい解決に向けて共同で取り組んでいくための大切な場と位置付けられています。



本プロジェクトでは、これまで2年8ヵ月もの膨大な時間をかけて小学1年生用の新しい教科書と教員用指導書の開発を行い、今年に入ってから小学2年生の教科書と教員用指導書に着手したところです。しかし、これまでの作業過程において数多くの課題が出されていました。そこで、本合同調整委員会ではこれら課題をお互いに確認し合い、ミャンマー教育省と一緒にその解決策を模索しました。なお、合同調整委員会は以下のように進められました。

合同調整委員会（JCC）の議事内容

時間	内容	責任者
13:30-13:40	開会の辞	Dr. Soe Win（教育省次官）
13:40-13:50	JICA 本部ミッションより挨拶	水野氏（JICA 本部）
13:50-14:30	プロジェクトの全体進捗報告 教科書開発に係る懸案事項 導入研修の進捗と次段階	加藤氏（CREATE 総括） 田中（CREATE カリキュラム・リーダー） 増田氏（CREATE 教師教育リーダー）
14:30-14:50	R/D の改訂	徳田氏（JICA 本部）
14:50-16:30	議論	
16:30-16:40	閉会の辞	Dr. Soe Win（教育省次官）

合同調整委員会で議論され合意された主な内容は以下のようです。

■CREATE 全体に関する内容

- 優秀な CDT の追加（現在、教育省で SWC と共に候補者を選定しています）
- 教育省より CDT を監督する職員を 1 名 BERDC に常駐させる
- 教育省は初等教育カリキュラムと中等教育カリキュラムとの一貫性を維持するための調整を行う

■教科書・教員用指導書開発に関する内容

- 小学2年生の教科書・教員用指導書開発のスケジュールについて合意（下図参考）
- **カリキュラム・フレームワーク**は現在、**教育省で一部改訂しており**、改訂が終わり次第、NCC で承認を得る予定である
- **小学2年生の教科書の配布**については**教育省内で再度検討**する
- 教科書開発の基本政策としては、CREATE で作成した「教科書開発ガイドライン」を基本とするため、現在、教育省内でその内容を精査している
- 小学2年生の**教員用指導書でも 100%の内容をカバー**する
- SWC 及び NCC での教科書・教員用指導書**レビューを簡素化**する（下図参照）

小学2年生の教科書及び教員用指導書の開発スケジュール

業務内容	2017年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小学2年生用教科書開発	[Progress bar from Jan to Oct]											
(1) カリキュラム・アウトライン		▲ NCCへ提出					▲ 初校	▲ 再校	▲ 三校	▲ 最終校		
(2) SWC レビュー							▲		▲			
(3) DMNL レビュー								▲				
(4) NCC レビュー					▲	▲			▲			
小学2年生用教員用指導書開発	[Progress bar from May to Oct]											
(1) SWC レビュー									▲ 初校	▲ 再校	▲ 三校	▲ 最終校
(2) DMNL レビュー										▲		
(3) NCC レビュー						▲	▲					▲

注 1：DMNL とは教育省内にあるミャンマー少数民族語局を指す。

小学校の教育課程から突然「理科」が消えた話

ミャンマーの教育課程を詳細に見ると、我々にとっては何とも不思議なことがいろいろと見つかります。その不思議なことの一つに、「理科」という教科が小学校の教育課程から完全に消えていた時期があったという事実があります。1985年から1997年までの約14年間、小学校では「理科」という教科が設定されていなかったのです。1998年の教育改革でようやく「自然理科」（低学年）と「理科」（高学年）が復活し現在に至っています。では、なぜ、1985年から「理科」が突然無くなったのでしょうか？

ここで少しミャンマーの教育課程を振り返って見ましょう。独立後の最初の教育課程（1952-65年）では「理科（Basic General Science）」がきっちりと設定されていました。その後、ネーウインの軍政時代の教育課程（1966-84年）に「社会・理科（Social and Science）」というように「社会」と「理科」が統合されます。その後、ネーウインの社会主義政権時代に「理科空白時代」が訪れるのです。

まず、「社会・理科」という新教科が設定された理由から見ていきましょう。この設定の背景には、小学校段階では特定の専門知識を教えるよりも、もっと広い一般的な知識を教え、基礎力を高めることが重要という考えがあったと言われています。これによって、小学校でこの新しい教科が生まれました。なかなか妥当な考え方ですね。教育関係者の話ではこの教科は結構興味深い内容だったということもお聞きしています。

しかし、社会主義政権時代になるとこれまでの教育政策の悪い面が顕著になってきます。というのは、国家の産業発展に必要な高度な人材育成のために科学教育が重視されたことによって、中学校段階から「優秀＝理系」、「凡人＝文系」というレッテルを張り、理系への高校進学、理系の専門大学への進学を推進していく政策をとったことで、理系志望者と文系志望者のアンバランス及び両者間の学力格差が社会問題にまで発展するようになったのです。そこで、この「理系崇拜熱」を抑えるために、突然、当時の政権は小学校段階から「理科」を消し去ることで、その目的を達成しようとしたようです。かなり安易な教育政策であったと言えなくもありません。こうして、1985年から施行の小学校教育課程から「理科」が無くなってしまったのだそうです。

この安易な政策によって、当時の政権が目指していた目的はある程度達成できたようですが、しかし、科学的なものの見方・考え方を欠いた児童生徒の増加という教育の質的低下が顕著になってきたことは事実で、ちょうどこの時代の教育を受けた現在の30代半ば～40代の働き盛りのシニア層に科学的思考が十分にできない人が多いのも、悲しいことか、また事実なのです。

以上

文責：田中義隆（カリキュラム・チームリーダー）
編集：宮原光（プロジェクト・コーディネーター）